

2016年5月19日

～被爆国の女性からの手紙～

広島訪問にあたり、被爆国の女性の切実な願いにこたえ、
核兵器廃絶への行動にふみだしてください

アメリカ合衆国大統領 バラク・H・オバマ 様

新日本婦人の会
会長 笠井貴美代

私たち新日本婦人の会は、2009年4月、オバマ大統領のチェコのプラハで核兵器のない世界の実現を追求するとの演説を受け、「ともに核兵器をなくすために力を合わせましょう。ぜひ、広島、長崎を訪れ、被爆地、そして被爆者の声に耳を傾けてください。あのきのこ雲の下でなにがあったのか、その後どんな苦しみがつづいているのかを知ってください」と、大使館を通して手紙を届けました。

今回、現職大統領として初めて被爆地を訪問することを表明されたことは、私たちも長年願っていたことであり、心から歓迎します。ぜひ、被爆者の声や願いに耳を傾け、被爆の悲惨さと核兵器の非人道性をじかに知っていただくことを切に願っております。

「核兵器を使用したことのある、唯一の核兵器保有国として、アメリカは行動する道義的な責任があります」（プラハ演説より）の言葉をいまこそ、実行に移すときです。

「核兵器のない世界」は、最大の核保有国であるアメリカの政治的意思が発揮されれば、実現へ大きく前進することは間違いありません。

「核抑止力論」は、安全な世界をつくれないうころか、核兵器の使用の危機や、核の拡散、格差貧困の拡大、テロの不安が広がっているのが現実です。いまこそ、国際社会が一致して、核兵器を禁止し、廃絶することへ踏み出すことが、求められます。

私たち被爆国の女性たちは、木の葉のように焼かれた子どもたちや女性、いまでも後遺症に苦しむ被爆者の苦しみを、二度と世界のだれにも繰り返させてはならないと、固く決意しています。オバマ大統領の被爆地訪問をきっかけに、核兵器禁止・廃絶のための国際条約の締結へとリーダーシップを発揮されることをつよく期待します。